

# 歴史的分野 学習指導案（公開授業Ⅰ）

指導者 松江市立第三中学校 教諭 種田 聡子

## 1. 単元名 成長する民衆 ～結びつきが強まる時代～

### 2. 単元目標

中世後期に一揆が多発するようになった背景や要因を、多面的・多角的に考えることを通して、民衆が団結し成長した時代であることを理解する。

### 3. 単元構想

#### (1) 教材について

中世後期は、長い間戦乱が続き激しい変化が繰り返された時代であるといえる。その中で、民衆が成長し団結して自分たちの要求を実現するまでに成長を遂げた時代であるといえることができる。

中世前期のころは、民衆は荘園領主や幕府の圧政に対して、じっと耐える、訴状を書いて訴える、逃散するなどの行動に出ることが精一杯であった。それが、中世後期になると、自分たちの要求を主張し、荘園や村を越えて団結して行動するようになる。正長の土一揆が起こったときには、興福寺大乗院の僧侶尋尊が「日本開闢以来、土民蜂起これ初めなり。」と記録に残しており、大きくなる民衆の力に対する衝撃がみてとれる。

このような民衆の成長を支えたのは、諸産業の発達や民衆の団結である。農村では二毛作やかんがい技術の普及などによって、農業の生産力が高まり、生活が安定していった。そうした生産力の上昇によって、自ら食料を作らずにすむ人々が増え、室町時代には職人の種類が飛躍的に増加した。手工業の発達により、各地に特産物が生まれ、それらが貨幣とともに流通することで、各地の都市が発展していった。

この時期は南北朝の戦乱や応仁の乱など、様々な戦乱が絶え間なく起こり、ききんも頻繁にあったため、自分たちのことは自分たちの力で解決しなければ生きていくことができない時代であった。そのため、こうした状況に対抗する手段として、民衆は団結し、力を合わせて立ち上がり、一揆を起こすようになっていく。現在の研究の成果により、当時起きた一揆の件数は約50件であると言われているが、そのうちの約8割が、京都を周辺とした近畿地方で起こった。そして、その代表が正長の土一揆や嘉吉の土一揆、山城の国一揆などである。個人では要求を通すことが難しいため「惣」というまとまりの中で、例えば、徳政令を要求したり、山城の国一揆に至っては、国人たちと農民、馬借らが協力したりして、守護大名の支配をはねのけ、8年間の自治を行った。

このように、室町時代は民衆が成長していく時代であり、他の時代に比べ民衆の躍動が顕著にあらわれている。そして、民衆の願いやそれに伴う動きがこの後の戦国時代や安土・桃山時代に大きな影響を与える。

以上のように、民衆の成長という視点から、当時の政治や経済・社会を、資料をもとに多面的・多角的に読み取り、比較や関連付けを行うことで、社会が大きく変化した中世後期の特色を理解できるとともに、これからの予測が困難な現代社会を生きる生徒たちの見方や考え方に示唆を与える単元であると考えられる。

#### (2) 生徒について

<個人情報保護のため省略>

### (3) 指導について

#### ① 「単元を貫く問い」と単元構造

本単元は、見つけた事象を関連付け、生徒が自分の言葉で中世後期の特色を説明し、概念的知識を身につけることに重点を置いた授業を構想したい。

そのため、単元を貫く問いとして「民衆が一揆を起こすことができるようになった中世後期は、どんな時代だろうか。」を設定した。これは、中世後期の特色である民衆の成長について、多様な視点から追究することをねらいとしている。中世後期に一揆が多発した背景を室町幕府の弱体化、諸産業の発達、民衆の団結といった視点から考えさせ、それらの知識を比較、関連付けさせ、中世後期の変化と特色をとらえさせたい。また、この学習を通して、中世の民衆の躍動する姿から、民衆のもつ強さや力が社会を動かしていったことを実感させたい。

#### ② 学習活動の工夫

##### 協働的な学び合いの設定

中世後期の特色をとらえさせるために、単元全体を通してイラストを含む絵画資料を多く使用し、視覚的な支援を行うことで、当時の人々の生活の様子や願いなどのイメージをふくらませたい。また、ペアやグループ活動を学習過程の中で効果的に取り入れ、協働的な学習を進めていきたい。そのために、資料提示やワークシートの工夫を行い、対話を深めさせたい。特に、本単元では民衆の団結・協力を理解させることを目標としているため、生徒自らが、団結したり協力したりする活動を通して、課題を解決していったほしいと思っている。本時では全体で意見を交流する場面をもち、問いに対する答えを全員で考えていきたい。

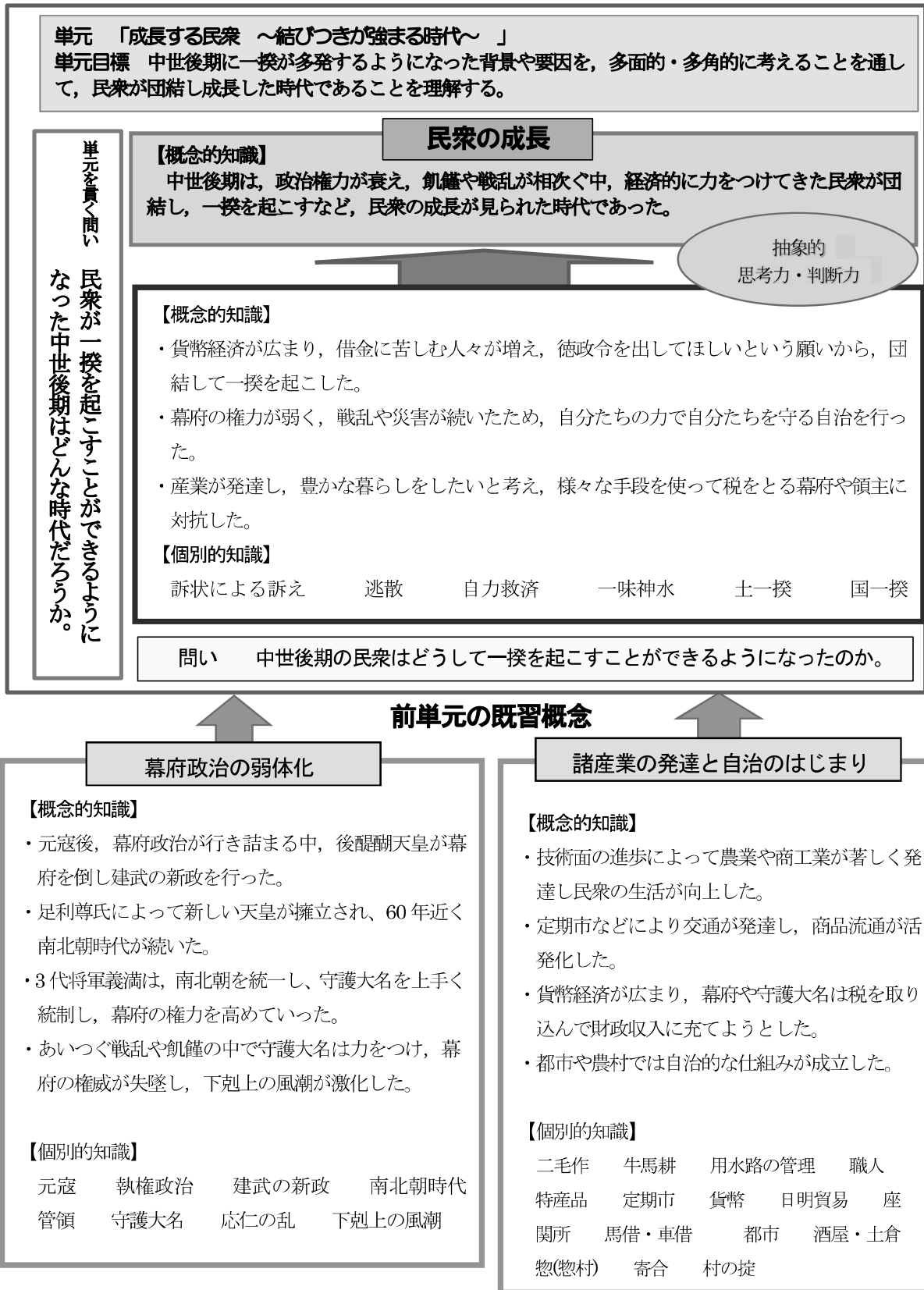
##### 思考の可視化の工夫

単元の導入で問いに対する予想をする際、KJ法を用いる。個人の考えを付箋に書かせ、グループごとにそれを集約して分類することで具体的知識をまとめていく。また、個人の考えが書かれたフリップカードをホワイトボードに全員が貼ることで、生徒の思考が見えるようにし、その中から似ているもの・関係があるものなどを生徒自らが見つけ、思考を関連付けることができるようにしていきたい。

#### ③ 評価活動の工夫

予想する、調べる、まとめるという活動の各場面で付箋やフリップカード、ワークシートなどに各自の考えを記入させ、生徒の思考力を見とっていきたい。また、単元を通して振り返りシートを活用し、毎時間の課題に対する振り返りを書かせることで、自分の考えを整理し学んだことを次の時間に活用させていきたい。次時の初めに振り返りシートの内容を紹介することで、自分にはなかった多様な考えに触れさせ、歴史的な見方・考え方を広げるように工夫したい。

4. 単元構造図



## 5. 単元を通して育成したい思考力・判断力

評価規準		評価資料
B評価	手立て	
一揆を通して、幕府の弱体化、諸産業の発達や民衆の団結といった知識を関連付けて、民衆の成長が見られる中世後期の特色を、自分なりの言葉で説明している。	関連付けていない生徒には、前の単元や既習事項を資料から思い出させ、室町幕府の様子や民衆の経済的な発展について着目させる。	発言 ワークシート

## 6. 単元の指導計画（全4時間）

■教師のはたらきかけ ●生徒によるはたらきかけ ◎評価活動

時	「問い」とおもな学習活動	思考力・判断力を育成する手立て
1	<p>○「一揆とは何だろうか」一揆の概要を資料から簡単にとらえる。</p> <p>○「土一揆略年表」から、中世後期には一揆が頻発していたことを読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い：中世後期の民衆はどうして一揆を起こすことができるようになったのか。（予想）</p> </div> <p>○問いに対する予想を立てる。</p> <p>○KJ法で予想を分類し、複数の視点に整理する。</p> <p>○次時以降、予想について複数の視点から追究していくという見通しをもつ。</p>	<p>■年表や絵画資料を用いて、一揆についての具体的知識をもたせる。</p> <p>■「中世前期までは農民が逃散や訴状による訴えなどの方法で支配者に抵抗した」という既習事項から、生徒の思考をゆさぶり、問いをもたせる。</p> <p>●グループごとに予想をたてて、整理する。</p> <p>◎問いに対する予想を個人で振り返る。</p>
2 ・ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問い：中世後期の民衆はどうして一揆を起こすことができるようになったのか。（追究）</p> </div> <p>○複数の視点のうち、一揆を起こすことができた最も大きな要因だと思う視点を1つ選び、資料をもとに調べる。</p> <p>〈視点の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府</li> <li>・戦乱</li> <li>・産業</li> <li>・村や都市 など</li> </ul> <p>○同じ視点で調べている者でグループになり、意見交流をする。</p> <p>○他者の考えを聞いた上で、一揆を起こすことができた最も大きな要因をフリップカードに書く。</p>	<p>■今までの学習を振り返ることができるようなブースを設け、資料やキーワードを掲示する。</p> <p>■根拠となる資料を選び、それを用いて自分の考えを説明できるようにさせる。</p> <p>●同じ視点で調べた者同士で集まり、自分の考えを広げたり、深めたりする。</p> <p>◎わかったことや考えたことを、自分の言葉で振り返る。</p>

4 本時	<p>問い：中世後期の民衆はどうして一揆を起こすことができるようになったのか。 (まとめ)</p> <p>○一揆を起こすことができた大きな要因として、選んだものを発表する。</p> <p>○全体で意見交流をし、関係があるものを見つけ出し、関連付ける。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>■今までの学習を振り返ることができるようなブースを設け、資料やキーワードを掲示する。</p> <p>■説明に根拠をもたせるため、資料を使って説明させる。</p> <p>■考えを広げさせるため、対話を重視し、意図的に補助発問を行う。</p> <p>●◎民衆が一揆を起こすことができるようになった理由について、複数の視点を関連付けて説明している。</p> <p>■◎この学習を通して、中世後期の特色がとらえられるように「～時代」という表し方で、まとめさせる。</p>
---------	---	--

## 7. 本時の学習

### (1) ねらい

民衆が一揆を起こすことができるようになった理由を追究することで、幕府の弱体化、諸産業の発達、民衆の団結を関連付け、民衆の成長が見られた時代であることを理解することができる。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前時までの振り返りと本時の問いの確認	○今までの学習を振り返り、本時の問いにつなげる。
展開	<p>問い：中世後期の民衆はどうして一揆をおこすことができるようになったのか。</p> <p>2. 問いに対して考える。</p> <p>(1) 自分の考えを書いたフリップカードを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府が弱くなった。</li> <li>・争いがずっと続いていた。</li> <li>・産業が発達し、お金を使うようになった。</li> <li>・民衆が村や荘園を越えて団結した。 など</li> </ul> <p>(2) 問いに対する答えを学級全体で考える。</p> <p>○関係があるものを見つけ出し、関連付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を使う世の中になり、借金に苦しむ人々が増え、徳政令を出してほしいという願いから、団結して一揆を起こした。</li> <li>・幕府の権力が弱く、戦乱や災害が続いたため、自分たちの力で自分たちを守る自治をした。</li> <li>・産業が発達し、豊かな暮らしをしたいと考え、様々な手段を使って税をとる幕府や領主に対抗した。</li> </ul>	<p>○前時に書いておいたフリップカードを、黒板に分類して貼らせる。</p> <p>■説明に根拠を持たせるため、様々な資料を用意し、それを用いて説明させる。</p> <p>■生徒と教師、生徒と生徒、学級全体と対話を広げるため、補助発問を意図的に行う。</p> <p>■全体での意見交流を交えながら、黒板に構造的にまとめることで、それぞれの関連性に気付かせる。</p>

ま と め	<p>3. 本時を振り返り，時代の特徴をつかむ。</p> <p>(1) 本時の問いに対する自分の考えを文章でまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 農業や商業が発展し，豊かになってきた民衆は，良い暮らしがしたいと願い，同じ願いをもつ者同士で結びついていった。幕府は政治が不安定で，戦乱が続いたため，税をたくさん取ろうとする幕府や守護大名などに対して激しく抵抗するようになり，一揆が起こるようになった。</p> </div> <p>(2) 「～時代」という表し方で中世後期を表す。</p> <p>(3) 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●◎民衆が一揆を起こすことができるようになった理由について，複数の視点を関連付けて説明している。</li>   <li>●◎この学習を通して，中世後期の特徴がとらえられるように「～時代」という表し方で，まとめさせる。</li> </ul>
-------------	---	--

### (3) 期待される生徒の姿

今まで習得した知識・概念を活用しながら，民衆が一揆を起こすことができるようになった理由を，室町幕府の弱体化，諸産業の発達，民衆の団結と関連付けて説明している。